

神戸市会議員



岡田ゆうじ

市会議員団市政報告

真剣勝負！神戸再生宣言！

- 【岡田ゆうじプロフィール】 ●1978年6月25日生まれ
●慶應義塾大学法学部卒、慶應義塾大学大学院法学研究科修士課程修了
●国会議員政策担当秘書資格試験に合格 ●参議院議員末松信介政策担当秘書
●2017年10月神戸市会議員補欠選挙にて27,279票を得て初当選

2018.12 No.12 認知症でも安心

認知症は高齢社会のわが国に突き付けられた深刻な課題です。厚労省などによると、2015年現在、国内に**認知症高齢者は約520万人**いると推計され、2025年には約700万人に膨れ上がるとされています。**65歳以上の5人に1人が認知症**となる計算です。



認知症男性が亡くなったJR東海の駅。ホーム端の階段から線路に降り、新快速の列車と接触した。

そんな中、2007年に愛知県大府市で起こった事故は、全国の注目を集めました。認知症で「要介護4」だった当時91歳の男性が、当時85歳だった妻がうたた寝をした隙に外出し、駅ホームから線路に降り、電車にはねられ死亡したというもので、JR東海が列車の遅延損害金など約720万円の損害賠償を求めて、遺族側を提訴しました。

地裁判決は「見守りを怠った過失」があるとして、**妻らに請求全額にあたる約720万円の支払いを命令**。高裁判決でも妻の責任を認めた上で、約360万円の賠償が命じられました。遺族にとっては、家族を亡くした悲しみの上に、畳み掛けるような苦難となりました。

最終的には最高裁で逆転判決が出て、妻らの賠償責任を認めず、J R東海の敗訴となりましたが、認知症高齢者が引き起こした事件、事故の責任は誰が背負うべきなのか、改めて考えさせられる契機となりました。

本訴訟以来、大府市や神奈川県大和市、福岡県久留米市などで認知症高齢者が引き起こした事故や加害行為をカバーする、賠償責任保険制度がスタートしています。神戸市もこの流れに続く認知症対策「神戸モデル」を策定しましたが、「神戸モデル」は賠償責任保険制度だけでなく、被害者には見舞金を支給し、認知症の診断費用も助成するという、全国でも例を見ない総合的な認知症対策です。

見舞金制度では、認知症高齢者が起こした火災や傷害などの事故に巻き込まれた被害者に、市が最高で3千万円を支給するもので、発生場所は市内外を問いません。

賠償責任保険制度では、認知症と診断された人を対象とした賠償責任保険に神戸市が加入し、本人や家族が賠償責任を追った場合に**最大2億円を支給**するものです。その他24時間365日相談できるコールセンターの設置や、GPSシステムによる非常時駆けつけ検索サービス、そして認知症の疑いを判断する「認知機能検診」と、認知症であるか確定する「認知機能精密検査」に要する費用を助成する制度も創設されます。

「神戸モデル」の実施に必要な予算は3億円。神戸市は市民税均等割（年額3,500円）に、月額約34円を上乗せすることで、財源とする方針です。

認知症高齢者は今後も増え続け、事故が起きるリスクはさらに拡大していきます。**認知症高齢者も安心して暮らせる神戸市、垂水区の実現**を目指し、神戸市会でも積極的に議論して参ります。

認知症になっても**安心**して暮らしていけるまちへ

神戸市では、全国初となる認知症対策の「神戸モデル」の実現に向けて取り組んでいます！

全国初「神戸モデル」4つのポイント

① 65歳以上は、自己負担ゼロで医療機関における2段階方式の認知症診断が受診可能

② 認知症と診断された方は、市が賠償責任保険(最高2億円)に加入するなど手厚い支援を提供

③ 神戸市民が認知症の方が起こした事故に遭われた場合、見舞金(最高3千万円)を支給

④ これらの費用負担を将来世代へと先送りすることなく、市民のうすく広いご負担で賄う仕組み



「垂水区で長生きして良かった」と思える街にしたい

神戸市会議員 垂水区 岡田ゆうじ

〒655-0044 神戸市垂水区舞子坂3丁目18-20
TEL: 078-785-5171 / FAX: 078-785-5172

岡田ゆうじ
ホームページ
www.okadayuji.net
mail@okadayuji.net

